

- 問1 聖徳太子が、家柄に関係なく才能や功績によって役人を登用するために定めた制度を何という？
- 問2 推古天皇が才能や功績によって役人を登用するために定めた制度を何という？
- 問3 法隆寺が位置しており、飛鳥文化の中心地でもあった現在の都道府県はどこ？
- 問4 聖徳太子や蘇我氏が中心となって栄えた、日本で最初の本格的な仏教に基づく文化を何という？
- 問5 蘇我氏を倒したあとの大化の改新で、土地や人民をすべて天皇のものとする政治のしくみを何という？
- 問6 天智天皇の死後、大友皇子と大海人皇子の間で跡継ぎをめぐる起こった大規模な内乱を何という？
- 問7 唐や新羅からの侵攻に備えて、九州北部の防衛のために配置された兵士を何という？
- 問8 聖徳太子が制定した憲法において、仏教の尊重とともに取り入れられた教えを何という？
- 問9 7世紀前半に栄えた、日本で最初の本格的な仏教文化を何という？
- 問10 百済などの朝鮮半島諸国から、高度な技術や学問を持って日本へ移り住み、飛鳥時代の国づくりに貢献した人々のことを何という？
- 問11 聖徳太子が、中国の隋から進んだ政治制度や文化を学ばせるために派遣した人物は誰？
- 問12 聖徳太子によって建立され、世界最古の木造建築物群として飛鳥文化を象徴する寺院を何という？
- 問13 中国の隋や唐の制度を手本として、古代日本で編纂・施行された国家の基本となる制度を何という？
- 問14 飛鳥時代、仏教の採用をめぐる蘇我氏と激しく対立した有力豪族を何という？
- 問15 聖徳太子が、役人たちの道徳や政治の心得として定めた法令を何という？
- 問16 7世紀後半、壬申の乱で勝利し、天皇を中心とした国づくりを強力に進めた天皇は誰？
- 問17 中大兄皇子とともに飛鳥時代に権力を握り、天皇中心の政治の実現を阻んでいた豪族を何という？
- 問18 大津宮で政治を行った天智天皇が作成した、日本で最初の全国的な戸籍を何という？
- 問19 663年に日本軍が朝鮮半島で唐・新羅の連合軍と戦い、大敗した戦いを何という？
- 問20 天皇に権力を集中させ、全国を統一的に支配する国づくりを目指す体制を何という？
- 問21 日本が隋や唐の国家体制を手本にして、後に整えていった法典に基づく統治のしくみを何という？
- 問22 飛鳥文化を象徴し、聖徳太子によって建立されたとされる奈良県にある寺院は何？

答え合わせ・解説

問1	答え 冠位十二階	冠位十二階は、役人に能力や功績に応じて12段階の位を与え、それぞれ色分けされた冠を身につけさせる制度です。これにより、家柄にとらわれない公正な人事を行い、天皇を中心とした国家運営を支える官僚組織を目指しました。
問2	答え 冠位十二階	603年に制定されました。役人に位を表す冠を与え、その色は徳・仁・礼・信・義・智の儒教的な道徳に基づく階層を示しました。これにより、有力豪族だけでなく、能力のある人物を政治に参加させる道が開かれました。
問3	答え 奈良県	奈良県には法隆寺のほか、飛鳥寺や四天王寺などの初期仏教寺院が建てられ、大陸文化の影響を受けた美術が発展しました。この地域の独自の風土から、日本の古代文化が形作られていきました。
問4	答え 仏教文化	仏教文化は、聖徳太子や蘇我氏ら有力豪族によって深く信仰され、寺院の建立が活発になりました。中国の南北朝時代や朝鮮半島の文化の影響を強く受けており、大陸風の優美な建築や彫刻が特徴です。法隆寺などの寺院が代表的です。
問5	答え 公地公民	「公地公民」とは、それまで豪族たちが私有していた土地や人民を、すべて国家（天皇）の管理下に置く制度です。これにより、豪族の力を抑えて天皇による一元的な支配体制の基盤を作ろうとしました。
問6	答え 壬申の乱	672年に始まったこの争いは「壬申の乱」と呼ばれ、地方の豪族や兵を味方につけた大海人皇子が勝利しました。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、これまでの豪族中心の政治から、天皇に権力が集中する政治へと大きく転換しました。
問7	答え 防人	政府は国防を最優先の課題とし、九州の北部に「防人」を配置して警備を強化しました。また、九州各地や瀬戸内海沿岸には水城や山城を築き、万が一の侵攻に備える軍事施設を整えました。これらの防人は、東国などから選ばれた農民が任期を終えて交代で任務にあたるものでした。
問8	答え 儒教	儒教は、孔子を祖とする中国の思想で、礼儀や孝行、そして君臣関係といった秩序を何よりも重んじます。聖徳太子が制定した十七条の憲法では、仏教を尊ぶ姿勢とともに、この儒教的な上下関係の秩序を取り入れることで、役人たちが天皇に仕えるべき規範を示しました。
問9	答え 飛鳥文化	「飛鳥文化」は法隆寺の釈迦三尊像などに代表される、仏教中心の文化です。建築、彫刻、絵画などにおいて大陸の様式が積極的に取り入れられ、高度な技術が伝えられました。
問10	答え 渡来人	渡来人は、漢字や儒教、仏教などの学問のほか、機織り、金属加工、土木技術、須恵器の製作法など、高度な知識や技術を日本にもたらしました。彼らの技術は、大和政権の国づくりや、寺院の建設、都市計画に不可欠なものとなりました。
問11	答え 小野妹子	小野妹子は、聖徳太子の命令を受けて遣隋使として隋の都へ派遣されました。当時の隋の皇帝である煬帝に、天皇の親書（「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す」で始まるもの）を手渡し、対等な関係を要求しました。彼はこの命がけの外交を通じ、大陸の優れた文化や法律制度を日本へ持ち帰りました。
問12	答え 法隆寺	法隆寺は、聖徳太子によって建立された日本最古級の寺院です。現存する金堂や五重塔などの建物は、世界で最も古い木造建築物群としてユネスコの世界文化遺産にも登録されています。当時の建築技術や仏教美術の粋を伝えており、飛鳥時代の高度な国際交流の様子を現代に伝えています。
問13	答え 律令制度	「律」は今の刑法、「令」は今の行政法にあたるもので、これらを組み合わせて国を治める体制を律令制度といいます。この制度により、中央政府が地方を支配し、すべての国民を戸籍で管理して税や労役を課するという中央集権的な国家体制が築かれました。
問14	答え 物部氏	物部氏は日本古来の信仰を守る立場から、蘇我氏が推し進める仏教の導入に強く反対しました。両者は政治的、宗教的に激しく対立しましたが、最終的に蘇我氏が勝利したことで、日本における仏教の公認が決定しました。
問15	答え 十七条の憲法	604年に制定された十七条の憲法は、仏教や儒教の考え方を基盤に、役人が守るべき心構えを説いたものです。「和をもって貴しとなす」といった協調の精神や、天皇に仕える者としての自覚、公正な政治を行うことなどが記されています。
問16	答え 天武天皇	天武天皇は飛鳥浄御原宮に都を定め、天皇を頂点とする専制的な政治体制を確立しました。また、歴史書である『日本書紀』の編纂を命じ、富本銭の鋳造を行うなど、国の基盤整備に力を注ぎました。
問17	答え 蘇我氏	蘇我氏は飛鳥文化の中心的存在でもあり、聖徳太子と協力して国の基盤を固めました。しかし、独裁的な権力を振るったことで他の豪族や天皇家との対立を深め、最終的には不満を持つ中大兄皇子や中臣鎌足らによって倒されることとなりました。
問18	答え 庚午年籍	670年（庚午の年）に作成された「庚午年籍」は、日本で初めて全国規模で作成された戸籍です。これにより、政府は誰がどこに住んでいるかを把握し、兵役や租税を課するための基礎資料としました。この正確な戸籍の作成が、後の班田収授法の実施へとつながる重要な足がかりとなりました。
問19	答え 白村江の戦い	日本は百済を助けるために軍を派遣しましたが、白村江（はくすきのえ）という場所で唐・新羅軍に完敗しました。この敗戦により、日本は朝鮮半島での影響力を失い、次に唐が日本へ攻めてくることを恐れるようになりました。
問20	答え 中央集権国家	中央集権国家とは、天皇や朝廷が中心となって、全国の土地や人民を管理し、法律に基づいて統治を行う体制のことです。冠位十二階や公地公民といった制度は、まさにこの体制を実現するための手段でした。
問21	答え 律令制度	律令制度とは、刑罰を定めた「律」と、行政や税の決まりである「令」からなる法体系のことです。飛鳥時代の聖徳太子の時代から準備が始まり、大陸の制度を参考にしながら、天皇を頂点とした官僚的な政治システムを構築しました。これにより全国の土地や人々を直接管理することが可能となりました。
問22	答え 法隆寺	法隆寺は奈良県生駒郡斑鳩町に位置し、7世紀初頭に聖徳太子が建立したと伝わります。日本で初めてユネスコの世界文化遺産に登録された歴史的建造物であり、釈迦三尊像などの飛鳥彫刻の名品も多く収められています。